

平成30年11月27日

陸前高田市議会議長 伊藤明彦様

議会運営委員会委員長 福田利喜

平成30年度管外行政視察報告書

議会運営委員会の管外行政視察の概要について、下記のとおり報告します。

記

- 1 期 間 平成30年10月2日(火)から  
平成30年10月3日(水)まで
- 2 行政視察地 長野県飯綱町議会
- 3 視察内容 住民参加の議会と政策提言できる議会について
- 4 補足視察 長野県佐久市岩村田本町商店街振興組合
- 5 出席委員等 委員長 福田利喜 副委員長 菅原 悟  
委員 藤倉泰治 委員 中野貴徳  
委員 畠山恵美子 委員 三井俊介  
議長 伊藤明彦  
随 行 佐藤由也(事務局長)
- 6 欠席委員 なし
- 7 行政視察の概要 別紙報告書のとおり

(別紙報告書)

### 議会運営委員会管外行政視察報告

議会運営委員会では、平成30年度の管外行政視察を10月2日及び3日の2日間、長野県飯綱町議会において行った。

また、帰路を利用して震災の際にお世話になった長野県佐久市の職員の紹介で同市岩村田本町商店街振興組合において、中心市街地の活性化についても併せて視察を行った。

#### ○長野県飯綱町議会

長野県飯綱町議会は、前議長を中心に議会改革に長年取り組んでこられ、昨年度の第12回マニフェスト大賞優秀マニフェスト推進賞(議会部門)を受賞された議会である。

また、10年間にわたり継続した議会改革を進めてこられ、「議長選から始まる議会改革」と題して、議会全員協議会で議長・副議長立候補者が所信表明をし、質疑を行ってきた。(12年前から実施)

さらに、政策力ある議会・議員が求められていることから、政策立案・提案機能の充実に力を入れ、そのために町民との協働で政策研究するために「政策サポーター制度」、「議会モニター制度」を導入し、住民に信頼される議会を目指して活動されてきた議会である。

清水議長から飯綱町が農業と観光のまちであること等、概要をうかがった後、日本全国の自治体から視察が殺到する「日本一有名な町議会」になった今日に至るまでの議会改革への動機や取り組みの歩みを詳細に説明頂いた。

議会改革の動機は、飯綱町が旧牟礼村との合併直後、旧牟礼村が損失補填契約を結んでいた民間会社が経営破綻したことにより、議会のチェック機能と議決責任、説明責任が問われたことによる。また、平成20年に町の全世帯に対して議会活動に対する

住民アンケートを行ったところ、75%の町民は議会と議員に対して不満があるという厳しい評価であった。議会改革は、この現実からの出発であった。

平成20年は、その後の半年間にわたって30数回の学習会と自由討議を重ね、目指す議会像と8項目から成る改革課題を整理している。その後、4年間余りの議会改革の実践と成果を踏まえ、平成24年に議会基本条例が制定されている。

平成27年には、議会基本条例を一部改正し、議会広報モニター、議会の災害への対応、全国の先進議会への視察、交流会等に積極的に取り組むことが追加されている。

飯綱町議会の不断の議会改革において特筆すべき点は、年度当初の4月に議会基本条例に基づいて年間活動計画を毎年作成し、それを確実に実行されていることである。

また、飯綱町議会は、議会力を向上させ、首長と切磋琢磨する議会を目標に掲げており、行政の追認機関からの脱却と政策提言という議会本来の機能を発揮している。

その結果、議決・監視・政策立案の三つの役割を果たし、住民生活の向上に寄与している議会として、最初の議会活動に対するアンケートから4年後の平成28年のアンケート結果では、70~80%の町民が議会活動を評価しているという回答を寄せている。それは、具体的な年間活動計画に拠るところが大きいと感じた。

飯綱町議会が政策立案機能を発揮できる基盤は、政策サポーター制度の導入による。町内は、50の集落からなり、議員定数が15名であることは、議員がいない集落や地域が生じており、かつ、議員の平均年齢が66歳と総じて高く、全ての世代の民意を集約できていないという現実がある。それを乗り越えていくために、町民の皆様からお知恵を借りるということは必然であろうという考え方に拠る。また、この政策サポーターのなかから議員に立候補する方々が増え、議員のなり手不足が解消されることにも資している。

#### ○佐久市岩村田本町商店街振興組合

佐久市岩村田本町商店街振興組合は、旧中山道の宿場町である岩村田本町地区の商店街が、新幹線駅の開業やバイパスの開通によって郊外型大型店に客足を奪われシャッター街になることを憂い、様々な活動をされていた。

かつては、コンサルタントを導入し様々なイベントを開催し大勢の人を集めていたが、一過性のイベントでは商店街での買い物客を増やすことができないことや、イベント疲れが生ずることなどを自分たちで分析し、何が必要かを考え、人の回帰にはチャレンジショップによる新たなお店と、そこに集まる人が一つの導火線となることから、飲食に関するチャレンジショップを中心にまちづくりをされていた。

現在は、「地域密着顧客創造型商店街」を、さらに地域の皆様と「ともに暮らす、働く、生きる」商店街を理念とし、空き店舗を活用したコミュニティビジネスを前提としたコンパクトシティの構築を目指している。また、空き店舗だった場所は、惣菜専門店・手作りパン屋・花雑貨店・子育てサロン・高校生とコラボした食堂・多世代交流の学び拠点「寺子屋塾」等、多種多様に及び、高齢者から若年層までを対象にした手作り感溢れるコンパクトシティとなっており、少子高齢化が加速する地方都市の課題解決のヒントになると感じた。

#### ○総合所感

飯綱町議会の議会改革成功の秘訣は、議会への住民参加を拡大し、議会の見える化を進めたことにより、議員の意識改革につながった結果である。一過性や単発では不十分で、持続的・継続的に実践を積み重ね、活動を定着させることこそが議会改革においては重要なことだと認識するに至った。

議員間における自由討議については、必要に応じ全員協議会を開催し、そこにおいて行われるなど工夫も見られ、重要案件、行政課題について自由討議を進め、論点、争点の整理を行っているなど議会としての機能を発揮するための工夫がされており、本市議会でも全員協議会で行うべきか議会の場で行うべきか別として見習わなければならない点だと感じた。

本市議会では、目下、議会基本条例の逐条検証を行っているが、今回の飯綱町議会の議会改革の実践をこの検証の過程、あるいは、今後の議会改革にどう繋げていくのか、それを具体的に市民に見えるかたちで提示したいと考える。